

正誤表 中期目標の達成状況報告書

千葉大学

	頁数・行数等	誤	正
1	10 頁・10 行	なお、本構想は、平成 26 年事業年度法人評価において	なお、本構想は、平成 26 事業年度法人評価において
2	13 頁・16 行	園芸学部では、福島県富岡小中学校に「植物工場」を設置	環境健康フィールド科学センターは園芸学研究科と連携して、福島県富岡小中学校に「植物工場」を設置
3	29 頁・8 行	平成 24 年度に千葉県弁護士会と「覚書」を調印し	平成 25 年度に千葉県弁護士会と「覚書」を調印し
4	36 頁・20 行	秀の割合を 15%以下にすることを平成 25 年度に決定した。	秀の割合を 15%以下にすることを平成 26 年度に決定した。
5	46 頁・資料 1-1-5-1-①	ALSA-LS (学修支援担当 SA)	ALSA-LS (学習支援担当 SA)
6	46 頁・資料 1-1-5-1-①	人的学習支援	コンテンツ形成
7	48 頁・23 行	また、ICT を活用した <u>教育手法を活用した教育手法</u> として、	また、ICT を活用した <u>教育手法</u> として、
8	57 頁・19 行	図書購入方式 (PDA:Patron Driven Acquisiton)	図書購入方式 (PDA:Patron Driven Acquisition)
9	80 頁・19 行	柏の葉キャンパス内に「植物工場」が完成	柏の葉キャンパスの環境健康フィールド科学センター内に「植物工場」が完成
10	88 頁・37 行	柏の葉キャンパス内に「植物工場」	柏の葉キャンパスの環境健康フィールド科学センター内に「植物工場」
11	95 頁・資料 2-2-1-2-③	(平成 25 年度 特別研究員) 25	(平成 25 年度 特別研究員) 28

	頁数・行数等	誤	正
12	95 頁・7 行	テニユアトラック制においては、平成 22 年度から 26 年度に「科学技術人材育成費補助金（平成 22 年度までは科学技術振興調整費）により、特に生命科学分野を中心とする自然科学分野を対象として導入し、	テニユアトラック制においては、平成 22 年度から「科学技術人材育成費補助金（平成 22 年度までは科学技術振興調整費）により、特に生命科学分野を中心とする自然科学分野を対象として実施し、
13	99 頁・4 行	うつ症状を示す疾患に対して即効性かつ <u>長期持続性</u> の <u>長期持続性</u> の治療効果	うつ症状を示す疾患に対して即効性かつ <u>長期持続性</u> の治療効果

正誤表 学部・研究科等の現況調査表（教育）

千葉大学教育学部

	頁数・行数等	誤	正
1	2-6 頁・資料 2-8	(教務委員長、 <u>学生・就職委員長</u>)	(教務委員長、 <u>学生・就職委員長等</u>)

正誤表 学部・研究科等の現況調査表（教育）

千葉大学教育学研究科

	頁数・行数等	誤	正
1	3-8 頁・資料 3-9	(教務委員長、 <u>学生・就職委員長</u>)	(教務委員長、 <u>学生・就職委員長等</u>)

正誤表 学部・研究科等の現況調査表（教育）

千葉大学理学部

	<p>頁数・行数等</p>	<p>誤</p>	<p>正</p>
<p>1</p>	<p>5-4 頁・資料 5-6</p>	<p>（2）3年次中に早期卒業希望者に実施される総合学力評価試験によって、学力が優秀であると物理学科<u>で</u>よって認定されること。</p>	<p>（2）3年次中に早期卒業希望者に実施される総合学力評価試験によって、学力が優秀であると物理学科<u>に</u>よって認定されること。</p>

正誤表 学部・研究科等の現況調査表（教育）

千葉大学理学研究科

	頁数・行数等	誤	正
1	6-13 頁・5 行	平成 27 年 3 月修了生に対して実施した千葉大学（ <u>理学部</u> ）の「教育・研究」に対する意識・満足度調査の結果は、資料 6-16 及び資料 6-17 のとおりである。	平成 27 年 3 月修了生に対して実施した千葉大学（ <u>大学院理学研究科</u> ）の「教育・研究」に対する意識・満足度調査の結果は、資料 6-16 及び資料 6-17 のとおりである。

正誤表 学部・研究科等の現況調査表（研究）

千葉大学医学部・医学研究院

	頁数・行数等	誤	正
1	5-4 頁・16 行	平成 24 年度文部科学省「 <u>博士リーディングプログラム</u> 」に採択された。	平成 24 年度文部科学省「 <u>博士リーディングプログラム</u> 」に採択された。
2	5-10 頁・40 行	国内外の学術集会 <u>おいての招待講演</u> 、市民を対象とする公開講座等を多く開催して	国内外の学術集会 <u>において</u> 、招待講演や市民を対象とする公開講座等を多く開催して